



9年生研修旅行

「MEMORIES～多角的な視点をもって取り組む21万6千秒～」

「ファー!」「キャー!」5月31日(火)晴れ渡った空の下、真っ青な壱岐島のビーチで9年生の歓声が響いていました。バナナボートやカヌー体験など、普段出来ないマリン体験を満喫しました。今年の9年生の研修旅行のスローガンは「MEMORIES～多角的な視点をもって取り組む21万6千秒～」このマリン体験はその一部分です。この21万6千秒の中には大刀洗平和記念館での平和学習、博多での班別研修など、本当に多角的であったのですが、「東山泉」が大切にしている「夢創」につながる学習がありましたので、9年生の感想とともに紹介させていただきます。(本校2ndステージでは、「総合的な学習の時間」のことを「夢創(むそう)」と呼んでいます。)



壱岐島での活動の中で「京都から壱岐へ I(アイ)ターン就職して10年経て感じたこと～壱岐島の現状と見えてきた課題～」というテーマで、河合恭典さんに講演をしていただきました。河合さんは京都市出身で現在、一支国博物館副館長として、長崎県や壱岐島の埋蔵文化財の研究をされつつ、壱岐島の魅力を発信している方です。その講演を聞いた9年生の感想です。

壱岐島の経済発展のために「壱岐らしさ」を大切にしていきたいという言葉を聞いたとき、なるほど、と思いました。その理由は、伝統ある文化が他府県とまったく同じ政策を行ってしまうと押しつぶされてしまい「壱岐らしさ」が失われてしまう。そんなことになれば、壱岐の文化や伝統を愛する住民にとても悲しい思いをさせてしまう。そうならないために、壱岐の課題を壱岐らしく解決していきたいという河合さんの言葉に、河合さんは壱岐島のことが大好きなのだと実感しました。壱岐のことが大好きだからこそ、島の魅力をそのままに「壱岐らしさ」が残るように経済を発展させるという想いにとても感動しました。僕も「夢創」で自分の町の課題を題材にしたときに「京都らしさ」「東山泉らしさ」を大切にしてきました。今回の講演を機に、これから学習や学びに活かしていきたいと思いました。



この9年生の感想の「壱岐らしさ」という言葉を「東山泉らしさ」に換えると、本校が9年間大切にしていることがよくわかるような気がします。今回の研修旅行で9年前に入学した子どもたちが、9年間の学習を「研」ぎ澄まし、自分の考えとして「修」めてくれていることを大変うれしく思います。子どもたちが、地域の中でたくさんのこと学ばせていただいていることに感謝しつつ、彼らのこれから活躍を期待したいと思います。

2022全日本ジュニア・ユース綱引選手権大会 4チーム出場決定!!



8月7日(日)に島津アリーナで開催される「2022全日本ジュニア・ユース綱引選手権大会」に、5・6年生の4チームが出場することが決定しました。子どもたちは、大会に向けて練習に取り組んでいます。6月11日には練習会に参加し、京都府綱引連盟の指導者の方から競技のルールや引き方のコツなどを教えていただきました。大会に向けて頑張る子どもたちに、ご声援をどうぞよろしくお願ひいたします。

GIGA端末の持ち帰りについて

2ndステージ(6~9年生)では、家庭学習で使用するため、6月下旬より毎日、GIGA端末の家庭への持ち帰りを行っています。デジタルドリルを利用する等、家庭での学習に活用してください。

1stステージ(1~5年生)での持ち帰りについても、今後、段階的に進めていきます。



伝統文化体験～茶道～

講師の先生をお招きし、5年生で「茶道」の体験を行いました。子ども

たちは、西学舎の和室「泉游の間(せんゆうのま)」で、凜とした空気のなか自分でお茶を点て、そのお茶をじっくり味わいながら美味しくいただきました。体験後に、「心をこめてお茶を飲んだら、味が変わるんだなと思いました。」と感想を話してくれた児童がいました。「ほんもの」の伝統文化を体験することを通して、伝統文化のよさや心配りなどを学ぶことができ、とても充実した心豊かな時間となりました。

